1977年12月3日第三種郵便物認可（毎月1・2・3・5・6・7の日発行）2016年11月5日発行SSKP通巻6470号

SSKP
はれのちくもり
第81号
ピアス通信別冊第9号

はれのちくもり別冊ピアス通信では、ピアスを中心に、訓練やイベントなどの様子を皆様に発信していきたいと思っております

帝京大学で当事者出前講座を行いました

10/19に**帝京大学心理学科「デイケアの臨床」**という講義で、メンバーの阿部さんと共に**当事者出前講座**を行いました。

阿部さんから、精神障害・症状、生活上の困難について、ピアスでどの様な訓練を行ったか、病状をコントロールするために日々行なっていること、将来についての希望等を報告していただきました。

阿部さんは訓練と職場体験実習の合間に書き上げた原稿を、緊張しながらも、学生の方々にまっすぐに話してくれました。学生も、時にマイクを忘れ熱中して話す阿部さんの声に耳を傾けていました。本当にあっという間の45分間です。

終了後、学生のリアクションペーパーを見せていただくと

「自分についての分析が良く出来ていることがすごいと思った」

「精神障害がある事でどの様な生活上の困難があるかよく分かった」

「精神障害のある方が社会に復帰する時に自分になにが出来るかを考えた」

等の、様々な素直な反応が返ってきました。

阿部さんの**「僕はいいことをしたんですね」「自分では誰にも話したくない様な事が、人にとっては何か価値のあることになったみたいで、何だか不思議です」**という言葉がとても印象的でした。彼の中で何か大きく変化する機会になったのかなと、私自身も嬉しくもなりました。

この講義をお手伝いさせていただくのは今年で4年目になりますが、毎年私にとっていろんなことを考えさせていただく機会になっています。今後も是非継続できればと思っています。

（ ピアス　吉本 ）

1977年12月3日第三種郵便物認可（毎月1・2・3・5・6・7の日発行）2016年11月5日発行SSKP通巻6470号

帝京大学　当事者出前講座

デイケアの臨床

帝京大学心理学科　佐々木真一

ピアスの皆様に、当事者の方による講演をお願いしているのは、帝京大学心理学科の「デイケアの臨床」という科目です。講義では、精神保健医療福祉の専門知識を学習することよりも、精神障がいについて予断や偏見のない公平な態度を身につけること（例えば、就職した会社で精神障がい当事者と机を並べたとき、同僚として安心して接することができる、など）を大切にしています。

当事者の方による講演は、この講義の「目玉コンテンツ」の一つです。今年も、１０月１９日に実施しました。お話し下さったのは、若い男性の阿部さん。発病してから回復するまで、薬物療法で苦労したこと、就労に向け努力していること、学生さん達へのメッセージなどを、時間いっぱい熱く語っていただきました。多くの学生さん達も、熱心に聞き入ってくれました。

学生さん達が卒業し、社会を担う大黒柱として活躍する時に、精神障がいへの偏見が少しでも和いでいること、この講義や当事者の方の講演がその後押しになっていることを願っています。当事者講師の阿部さん、ピアスの皆様、ありがとうございました。

講演したピアスメンバーの阿部さんに、一言いただきました

最初は断ろうと思いました。なぜなら、私は自分が精神病だということを恥とし、周囲に隠して生きてきたからです。大勢の学生の前で病気を公にすることに抵抗がありました。

発病してから10年以上もの長い間、病にかかった自分自身を受け入れられず、見て見ぬ振りをしてきました。病にさえかかってなかったら、どんな未来があっただろうか、と悔いの滲む言葉がずっと頭の中を駆け巡っていました。現状を受け入れられずに延々と自己否定しかできない思考回路自体がさらに病状悪化を引き起こす悪循環の中にいて、蟻地獄のようにどう足掻いても抜け出せませんでした。

私がその悪循環から抜け出せたのは、ピアスでの訓練を重ねていくにつれて、自己肯定感が増したからです。障害があったとしても何とかコントロールして、社会に戻りたい・就労したいと情熱を持って前向きに取り組んでいくうちに、少しずつ等身大の自分自身を好きになってきました。厨房でお弁当箱をゴシゴシ洗うことも、苦しみを取り除いてくれた道程なので尊く感じられるのです。

そう考えられるようになったのは私の奮闘もありますが、ピアスの場があったからこそです。職員、メンバー、調理スタッフの方々への恩と感謝が溢れて、今回の講演を引き受けることにしました。

（ピアスメンバー　阿部）

多摩就労ネットワーク連絡会議のご報告

平成28年9月29日、障害者就業・生活支援センターオープナーとハローワーク立川との共催で**多摩就労ネットワーク連絡会議**を、ハローワーク立川会議室にて行いました。市区町村就労支援事業や行政機関、医療関係者、地域で就労相談や就労支援を行っている方々など、６３名が集まり無事終了しました。
今回は**「新たな利用者に対応するために　～増える発達障害を持つ学生の現状と先駆的な取り組みを学ぶ～」**と題して、大学や発達障害を持つ学生の現状を知り、これからの地域の支援機関と大学の有効な関わりと連携について考え、ネットワークの視点をもって解決していけるかを問う研修にしました。

実践報告①

大学では今「一橋大学の実践」

講師：一橋大学　保健センター教授　精神科専門医　丸田 伯子先生

丸田先生からは、学生の“困りごと”から相談が始まり支援につながっていること、特性の自覚の有無によって支援の経過が違うことを報告していただきました。障害者差別禁止法が施行されたことによって、大学での在学障害者支援が取り組まれたことを知ることができました。

実践報告②

就労支援における大学との連携

講師：東京障害者職業センター多摩支所　主任障害者職業カウンセラー　井上 量氏

井上氏より、発達障害学生の就労支援における就労支援機関と教育機関との連携の現状と併せて事例の報告があり、支援が必要な学生が大学在学中から就労支援機関とつながっていくための連携の在り方について学ぶことができました

実践報告③

教育と福祉のネットワーク　「障がいのある生徒さんの就労に関する連絡会」を立ち上げて

講師：大田区障がい者総合サポートセンター　就労支援調整係長　木伏 正有氏
　　さぽーとぴあ　障がい者就労支援センター　広瀬健次郎氏

木伏氏・広瀬氏の報告では、特別支援学校でない高校からの支援要請や高校在学時・卒業後のライフステージでつまずいてしまう方がいることから、高校との連絡会を立ち上げた報告をしていただきました。連絡会では、支援プロセスの共有や就労支援の情報提供を行っており、在学中から支援センターが関わることでアセスメントを行いながらマッチングをはかり、学校と役割分担をしながらサポートを行っているとのことでした。連絡会では今後は、連絡会に区内全ての高校に案内していくことや大学・専門学校等高等教育機関との連携にさらに取り組んでいくそうです。

実践報告の一橋大学・障害者職業センター・大田区は先駆的な内容で、アンケートからも「新しい取り組みは驚きだった・知らなかった事がたくさんあり、連携がとても大事だと思った」との興奮気味の記述があり、「実践現場のとりくみは非常に興味深かった」「タイムリーな話題だった」と嬉しい書き込みもいただきました。

今後もオープナーでは、精神障害者の就労支援に役立つ情報と、就労支援機関等が興味の持てる研修開催していきたいと思います。　（オープナー）

コラム

平成28年度　当事者セミナーのお知らせ

今年度も、オープナーでは働きたい当事者やその支援者に向けて当事者セミナーを開催します。

日時：平成28年12月15日（木）　13:00～16:00
場所：立川グランドホテル

第一部では、「仕事をする力」の中でも「余暇の力」を事前に身に付けておく必要性について、ピアスにて「CES」や「作業体験プログラム」の講師をお願いしている中村干城氏に講演していただきます。
第二部ではオープナーを利用しながら働いているメンバーに登壇してもらい、就労の準備から定着まで、またうまくいかない時の対処法なども含めてお話ししていただく予定です。
詳細や申し込み方法については後日、法人ウェブサイトなどでお知らせします。たくさんの方々のご参加をお待ちしております。　（オープナー）

編集後記

今月から、このピアス通信を作っている「作業体験プログラム」の担当になりました。期限までに仕上げるために、原稿を依頼したり、集めたり、準備をしたりと想像以上に慌ただしく、前任者に頭があがりません…。（KO）

編集作業は初めてだったので、細かな調整が難しく感じました。(KK)

初めて校正作業を行いました。スタッフとの読み合わせで幾つも直しがありましたが、何とかまとめることができました。イラストが挿入できてよかったです。(HO)

今回はピアス通信を作るのが２回目だったので少し慣れてきました。作業体験プログラム、やってみると楽しいですよー！（TK）

９号の印刷グループの方が作業をしている間、１０号の企画を考えていました。初めての企画グループでとまどう事も沢山ありましたが、良い内容になると思うので、次号もご期待下さい。(KS)

【編集】国立市富士見台1-17-4 ピアス内
はれのちくもり編集委員会
Tel 042-575-5911
【発行】特定非営利活動法人
障害者団体定期刊行物協会
〒157-0072 世田谷区祖師谷3-1-17-102
Tel 03-6277-9611
【定価】100円